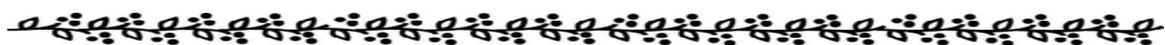




若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援

(答申)



平成 2 9 年 3 月 9 日

高崎市社会教育委員会議

目 次

諮問 「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」	1
はじめに	2
第1章 若者の力を、地域社会の活性化に向けた学びや活動に活かすための 社会教育及び社会教育行政の役割	
1、高崎市における若者の現状	4
2、地域参加に関する若者の意識	5
3、若者の力と地域社会の活性化	5
4、社会教育行政に期待する支援方策	7
第2章 公民館等の社会教育施設が、地域の人々と同様に、若者にとっても 身近な学習・活動の拠点になるための支援方策	
1、若者の地域活動の拠点として公民館を挙げる理由	9
2、若者の地域参加を促すために公民館に期待する取組	12
まとめと提言	16
添付資料	
・地域参加に関する意識調査 調査結果（抜粋）	20
・地域参加に関する大学生の意識調査 調査票	29
・地域参加に関する子育て世代の意識調査 調査票	32
・平成27・28年度高崎市社会教育委員会議開催経過	35
・平成27年度高崎市社会教育委員名簿	36
・平成28年度高崎市社会教育委員名簿	37

平成27年9月14日

高崎市社会教育委員 様

高崎市教育委員会
委員長 大山 碩也



「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」(諮問)

社会教育法(昭和24年法律第207号)第17条の規定にもとづき、下記の事項について理由を添えて諮問します。

記

(検討を要する事項)

- (1) 若者の力を、地域社会の活性化に向けた学びや活動に活かすための社会教育及び社会教育行政の役割
- (2) 公民館等の社会教育施設が、地域の人々と同様に、若者にとっても身近な学習・活動の拠点になるための支援方策

(理由)

平成25・26年度社会教育委員会議から「世代を超えて地域づくりに参画する人づくり支援～人々の想いをつなぎ、誰もが住みよい地域づくりを目指して～」の提言をいただきました。誰もが住みよい地域をつくり次世代につなげるには、世代を超えた人々の交流機会や学習機会をつくり、中間年齢層や団塊の世代が中心となつての活動を可能にするコーディネーター等の人材育成の必要を指摘されたものでした。

同時に、地域の取組を持続するには、地域行事への参加が子ども時代だけではなく、20代から30代の若者層も継続して積極的に参加する重要性も指摘されていました。

高崎市は、たくさんの「人・モノ・情報」が交流するエキサイティングなまちとなり、その力で、子どもからお年寄りまであらゆる世代の市民が安心して暮らせるまちを目指しています。人が出会い交流することでモノや情報が行き交い、それらが行き交うことで、その交流の場は活力ある魅力的なものとなり更に人をひきつけます。現在も学生達を中心市街地の活性化等に取り組んでいますが、これからは中心市街地だけでなく、それぞれの地域がそれぞれの形で若者の力を取り入れることが重要であると考えます。

以上の状況を鑑みて、目指す地域の実現に向けて若者の力を活かせるよう社会教育と社会教育行政が果たす役割及び公民館等の社会教育施設が地域の人々と同様に若者にとっても身近な学習・活動の拠点になるための支援方策について、研究調査・審議を願うものです。

はじめに

平成 25・26 年度の高崎市社会教育委員会議では、「世代を超えて地域づくりに参画する人づくり支援」について提言を行い、誰もが住みよい地域づくりに向けて、世代を超えた人々の交流機会や学習機会、世代をつなぐ人材育成が必要であることを指摘した。また、若者の地域参加の現状についても言及し、地域の取組を持続するには、若者層が地域活動に積極的に参加することが重要であることも指摘した。

この提言をもとに、今期は高崎市教育委員会から諮問を受け、「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」について、次の 2 つの検討事項を中心に審議を重ねてきた。

諮問「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」

[検討を要する事項]

- (1) 若者の力を、地域社会の活性化に向けた学びや活動に活かすための社会教育及び社会教育行政の役割
- (2) 公民館等の社会教育施設が、地域の人々と同様に、若者にとっても身近な学習・活動の拠点になるための支援方策

審議を進めるにあたり、地域社会の活性化に向けて活躍が期待されるのはどのような若者か、地域の活性化に必要な条件を検討し、若者の力が地域に必要な理由を確認したうえで、答申の対象となる「若者」を明確にしていくことにした。

(1) 地域の活性化に必要な条件

平成 25・26 年度提言「世代を超えて地域づくりに参画する人づくり支援」でも報告したように、人口の減少や住民意識の変化によって、伝統行事や地域行事への参加者が減少し、これらの行事を継続させていくことが困難になってきている地域も増えている。このような状況のなか、地域が抱える課題を解決し、地域の活性化を図るには、次の 3 つの条件が必要であると考えます。

- ① 高齢者層から若者層まで、多様な年齢層が活動に参加していること
- ② 行事の充実と発展に向けて、新たな発想が取り入れられていること
- ③ 次世代へのつながりを可能にする人材の育成が行われていること

(2) 若者の力が地域に必要な理由

これらの条件を満たすためには、現在の指導者である高齢者層や、後継指導者である中高年層に加え、もうひとつ下の世代である若者層が地域活動に参加することが求められる。

これからの地域を担う若い世代が地域活動に参加することで、新しい考えや仕組みが期待できる。また、高齢者から子どもまで異なる世代のつながりや、多様な人々の交流が生まれることで、より幅広い層が参加する地域行事へと充実・発展することが可能になると考える。

(3) 地域の活性化の力となる若者とは

「若者」の定義は様々であり、地域の人口構成によってもその位置づけは異なるが、高崎市社会教育委員会では、概ね「20～30代」を若者層と捉え、審議を進めることにした。そして、答申の作成に向けて、若者の地域参加に関する意識を明らかにする必要があると考え、対象をさらに絞り、高崎市内の大学に通う「大学生」及び小学校に通う子をもつ「子育て世代」を対象に、地域との関わりや公民館の利用状況を把握するための調査を実施した。

大学生は、現在は地域の行事に参加している数は少ないが、いずれ地域に入る世代として、将来の地域活動の中心になることが期待される若者である。彼らは居住地にかかわらずさまざまな地域で活動する意欲を持ち、社会の変化に対応した、新しいアイデアを出してくれる可能性を持っている。

一方、子育て世代は、育成会やPTAなどの組織を通して、現在一番多く地域行事に参加している若者であるが、子どもが小中学校を卒業し組織から離れると、地域との関わりが少なくなる傾向にある。子どもが学校を卒業した後も継続して地域行事に参加し、現在の指導者や後継指導者とともに地域を支える存在になることが期待されている。

こうした認識に立って、高崎市社会教育委員会では、調査によりその実状を把握することができた、次の2つの若者層を今回の審議の対象とした。

【本審議の対象とする「若者」】

- ・行動範囲が広く、チャレンジ力があり、発想力が豊かな「大学生」
- ・現在多くの地域行事に、子どもとともに参加している「子育て世代」

答申書の作成にあたっては、小委員会を設置し、6回の小委員会、7回の全体会を開催した。そして、会議における地域の現状に関する委員の発言や、若者の地域参加に関する調査結果をもとに、次の3点について検討を行った。

- (1) 地域づくりを支える組織・団体間の連携体制の整備について
- (2) 若者の地域参加を促進するための支援方策について
- (3) 時代の変化や若者のニーズに対応した社会教育施設（公民館）の整備・充実について

答申書は2つの章で構成した。第1章は諮問の検討事項(1)、第2章は検討事項(2)に関してである。それぞれ現状を分析し、そこから見出された課題について必要な方策をまとめた。第1章では、高崎市の若者人口の現状や地域参加に関する若者の意識をもとに、若者の地域参加を可能にする方法や、地域社会の活性化に向けて社会教育行政に期待する支援方策について述べた。また、第2章では、地域社会で公民館が果たしている役割や若者の公民館利用の状況をもとに、若者の地域参加を促すために公民館に期待する取組について述べた。

本答申書の内容が高崎市の施策に反映されることを期待する。

第1章 若者の力を、地域社会の活性化に向けた学びや活動に活かすための社会教育及び社会教育行政の役割

1 高崎市における若者の現状

(1) 統計から見る若者の現状

高崎市は三度にわたる平成の合併により、平成 28 年度統計では 37 万を超える中核都市となっている。本答申を作成するにあたり、若者層の 20～30 代に絞ってみても、その人口は 8 万人を超え、全人口に占める割合も 22%以上を占めている。この 20～30 代の人口を地域別に見ると、旧高崎地域や群馬地域に多く、倉渕・新町・榛名地域が少ない状況である。特に、地域人口における若者人口の割合では、市全体平均 22.2%を超えているのは群馬地域 (24.3%) と旧高崎地域 (22.5%) で、倉渕地域は 14.7%と最も少なく、榛名地域も 18.5%と低くなっている【グラフ 1・2】。

全体会で「地域で子どもの姿が見えにくくなった」という表現から、「地域に若者の姿が見られない」との指摘をした委員もいるが、一方で今でも地域に多くの若者がいると指摘した委員がいるのは、地域全体の人口と共に、割合の多い少ないが影響していると思われる。以上のような地域ごとの状況をしっかり把握したうえで支援策を検討する必要がある。

同時に、現在は若者層が比較的多い旧高崎・群馬地域においても、平成 21 年度の統計と比較すると、旧高崎 (△10,154 人)・群馬 (△512 人) 両地域とも減少している。

(2) 地域への参加に見る若者の現状

全体会における委員からの発言では、地域の若者層の多い少ないに関わらず、運動会などのスポーツ行事やお祭りなどの伝統行事への若者層の参加は、日常の印象以上に多いということである。この印象は、地域の人々が若者層の活躍を期待している裏付けであり、様々な行事での若者層の存在が大きいことを示している。今回の意識調査でも、子育て世代の若者層は、参加のきっかけが子どもの関わりがほとんどだが、それでも 8 割が参加していると回答している。参加の形態でもスポーツ行事やイベントには 3 割以上が企画段階からの参加と回答するなど積極的かつ重要な担い手になっていることが伺える。

また、参加は回答の 3 割と少ないが、比較的地域との関わりが薄い大学生も参加していることがわかった。特に、祭りなど関心の高い行事には居住地にこだわることなく参加していることである。このことから、大学と連携し、多くの情報を提供できれば参加する学生を増やしたり、地域内に大学がなくても参加を促したりすることが可能であることを示している。

参加している学生の多くが、子どもの頃に親と一緒に行事を楽しんだ経験を持っていることから、今子どもが参加して楽しいと記憶に残る行事を行うことは将来の地域の担い手を育成するうえでも重要なことである。

2 地域参加に関する若者の意識

(1) 大学生の意識

学生生活において、地域の人と直接関わる機会は意図的に望まなければほとんどない。地域参加活動を単位として認定する制度を設けている大学の学生は積極的な姿が見られるが、個人として地域の人と関わり行事に参加することは、手立ても無く難しいと思える。この参加していない学生も、「情報が入り」「時間が合えば」参加の意思を持っていることから、大学と連携し、情報を確かに伝えたり、参加可能な形態を提供したりすることは大事なことである。

参加意欲のある約3割の学生は、子育て世代が居住地中心であるのに対して、行事の内容によっては離れた地域にも参加意欲を持っていることから、若者層の少ない地域では、活動を支える一員として、また、新たな発想のもとで行事を充実できる意味からも学生参加を促す取組をすることは重要と考える。

(2) 子育て世代の意識

平成 23・24 年度提言「孤立しがちな子育て中の親への支援」作成時の調査で、「地域とのつながりが重要と思う」の回答が9割を超えていた子育て世代は、今回の調査でも8割が地域行事に何らかの形で参加している【グラフ3】。その意識を参加理由の回答で見ると、「役員（育成会）だから」「子どもが参加しているから」を合わせると8割を超えている【グラフ4】。加えて、任期終了後の地域行事への参加については、「やめる」「他の人に引き継ぐ」など直接的な関わりをやめる割合が7割近くに上っている【グラフ5】。このことから、地域との関わりは大切だが、子どもの成長とともに必要となる新たな課題への対応を重視し、地域との関わりは消極的なものにした意識が強いことがわかる。このような意識を持っている子育て世代の若者であっても、一度は地域行事に参加した経験を基に、将来の地域の担い手として期待できる人材であることを認識し、継続参加を促すためにそれぞれの実情に合わせた参加形態を工夫する必要がある。

特に、地域との関わりを「継続したい」と回答した3割を超える積極的な人材を活かし、消極的な人材との交流の輪を継続できる支援が大事である。

(3) 社会生活の変化に対応した若者意識

地域行事は伝統を重んじ、人から人へと受け継がれてきたものが多い。その良さを大事にしつつも、時代背景から新たな発想を加えてつないでいきたいと考えるのが若者である。公民館にあったらよい機能として大学生の38%、子育て世代の16%がWi-Fiをあげているなど通信機器を活用した取組方や情報発信など今までにない多様な視点からの考え方を持っていることがわかる【グラフ6・7】。

3 若者の力と地域社会の活性化

(1) 地域の取組を継続し、活性化するには

① 地域の取組の現状

高崎祭りなど、市としての大きな行事もあるが、旧高崎地域だけでなく倉渕から吉井地域まで、その地域特有の行事が行われている。その内容も様々で運動会などのスポーツイベント、郷土文化を継承する伝統芸能、各種団体が参加する祭り、伝統行事等が実施されている。

しかし、地域の活性化に必要な条件が整わず行事や活動を存続することが困難になっている所もある。継続を難しくしている要因として、指導者層の高齢化だけでなく、地域人口の減少、特に若者層の減少が考えられる。市内各地域の状況を見ても、旧高崎地域や群馬地域を除くとその傾向が顕著である。

この状況を受け止め、未来に継承するために新たな取り組みを始めている地域も現れている。

② 活性化の条件を満たす取組事例

群馬地域の金古地区にある「山車・祭り太鼓保存会」は、江戸時代から地域住民の愛する心で継承されてきた和太鼓を中心とした保存会である。この保存会が指導者層の高齢化、後継者不足等の課題を抱え、存続の危機に直面していた。

そこで、この課題解決に向けて次のような取組を行ってきた。一つ目は、「継承に必要な人材育成」として、子どもの頃活動を経験し、今は親となった世代の保存会への入会促進に取り組んだことである。二つ目は、若者世代の加入により「口伝から譜面指導へ」「祭り囃子の他、創作曲の採用」等、新たな発想に基づく取組を行ったことである。

三つ目は、保存継承活動に関わる人達の輪を広げたことであり、前述の「育成会の親世代の参加」に加え、町内会を含めた意見交換会やイベントで発表の場を増やし、交流機会の充実に努めたことである。このような取組により、保存会活動の参加者の輪が広がり、次世代の後継者育成が順調に図られるようになった事例である。

群馬地域は、人口構成では高崎市の中でも若者の占める割合が最も高い地域である。それゆえ可能になった取組とも言えるが、地域活性化の条件に基づいた取組を行うことにより、その地域の特色を活かした方法で活性化を図ることは可能と考える。

(2) 若者の地域参加を可能にするには

群馬地域の事例は、もう一つ貴重な教訓を教えてくれている。他地域に比べ若者層が多く、後継者育成も苦勞なく行える客観的条件を要しているにも関わらず、存続が困難な状況に陥った要因は、高齢指導者層の意識（地域の意識）と後継する若者層の意識の違いである。そこで、話し合いや交流の場を数多く設定することにより、意識の違いと互いの良さを確認し、継承するだけでなく発展も視野に入れた方法を共に考えることである。

この事例での若者層は、地域に居住し、子どもを通して地域行事参加している子育て世代の若者である。しかし、この世代の若者が少ない地域で同様な取組を如何

に進めるかを考える時、居住は異なり、関わる年数も限定的である 20 代の学生層の参加を視野に入れる必要がある。学生は魅力ある行事には実施されている地域が遠い、近いに関係なく活動に参加する積極さを持っている。更に、活発な行動力やより新たな発想も期待できる。

この学生の参加を可能にするには、一つには意識の共有であり、二つに学生が参加可能な参加形態を思考することである。そして、何より重要なことは、連携を継続するためにも大学との体系的な連携を確立することである。しかし、地域の団体が直接大学と関わることは難しい。そこで、社会教育行政が積極的に関わった連携方策を策定し、実施することを望みたい。

4 社会教育行政に期待する支援方策

高齢社会を迎え、若者に対して地域づくりにどのように向き合ってもらうかは大きな課題となっている。しかし、高崎市を見ても地域の状況は様々である。人口減少が進み、地域の若者そのものが少なくなっている地域もあれば、地域に若者はいるが地域行事へ主体的な参加が得られない地域もある。このような課題の解決をそれぞれの地域だけに任せていくことはかなり厳しいことと考えられる。やはり、高崎市として若者世代を地域づくりに取り込んでいく方策を具体的に進めていくことが重要である。意識調査の結果を踏まえ、以下の取組を社会教育行政に期待したい。

(1) 各地域における地域づくりの方向性の明確化

参加が少ない学生の地域参加を促し、既に地域の重要な担い手となっている子育て世代の継続参加を可能にするには、それぞれの地域で必要とする若者の参加の在り方を明確にしていく必要がある。個々の地域実情を尊重しつつ、実情に即した支援を行えるよう、市全域を対象とした情報共有の場を設定すること、そして、若者を活用することの大事さや課題を地域で重要な役割を担っている組織・団体と共通理解を図ったうえで、社会の変化に対応した地域づくりに向けて社会教育行政が積極的役割を果たすことを期待するものである。

(2) 大学との連携強化

若者が少ない地域及びその地域が必要とする若者の参加が得られない地域もある。これを考えると、大学生の地域参加を促していくことも重要な手段となる。市内の大学生に対する意識調査の結果を分析すると、約 3 割の学生が地域行事への参加経験を持ち、世代間交流やボランティア活動への満足感を得ている者も多い【グラフ 8・9】。参加理由は興味関心以外に「サークルやゼミで参加するから」ということも多かった【グラフ 10】。さらに、参加経験者の約 5 割が卒業後も何らかの形で地域活動に関わっていきたいと考えている【グラフ 11】。また、参加経験のない学生の約 4 割が「情報が入らないから」と回答している【グラフ 12】。

この結果から、次のように社会教育行政が大学と連携強化を図っていくことによ

り、大学生の地域参加が促されると考えられる。

① 大学との連携の体系化

高崎市の取組を市内の大学へ周知し、積極的な支援を要請することにより、協力可能なゼミやサークルへの情報提供や意見交換が図れるシステムを構築する。その際、高崎市としてそれぞれの地域で必要とする人材を把握し、大学とのパイプを一元化して対応することが望ましいと考える。また、このようなシステムを構築することにより、先輩から後輩へとつながりのある取り組みも見込まれ、地域参加の継続性も確保されることになる。

② 情報配信システムの検討

地域参加を促す情報が意欲のある学生に確実に届くような工夫をしていくことが必要である。若者が情報を得る手段として活用されているパソコンやスマートフォン等を使った情報配信システムも検討していく。

(3) 育成会等諸団体との連携強化

小学生の子を持つ親は、子ども会育成会に所属し地域行事への参加も多いが、中学生になると育成会から離れることにより、地域行事から遠ざかっていく傾向にある。参加しない理由としては、「曜日や時間が合わない」「知り合いがいない」「情報が入らない」などが挙げられている【グラフ13】。一方で、意識調査の結果を分析すると、子どもが卒業した後も約3割の人は何らかの形で地域活動に参加したいと考えている【グラフ5】。

子育て世代に継続的な地域活動参加を促していくためには、この世代の意見を積極的に取り入れる機会を設けていく必要がある。そのために、このような世代を巻き込んで、それぞれの地域の活動や行事の工夫を検討していくことが重要である。この取組を各地区公民館に期待したい。

第2章 公民館等の社会教育施設が、地域の人々と同様に、若者にとっても身近な学習・活動の拠点になるための支援方策

1 若者の地域活動の拠点として公民館を挙げる理由

(1) 地域社会で公民館が果たしている役割

公民館が地域で果たしている役割については、次のようなものが挙げられる。

1 地域住民の学習支援と学習機会の提供

- ①住民の自主的学習支援……趣味的学習サークルの奨励と活動の場の提供
- ②課題対応の自主事業……高齢者、成人、青少年対象の講座・教室の開設

2 地域づくり支援・ボランティア養成事業

- ①地域の文化的伝統行事……体育的行事の継承・発展への支援
- ②地域自治組織（区長会）や学校及び地域団体（子供育成会等）の連携促進
- ③地域団体の諸活動を支援するための情報提供（公民館だよりの発行）

このように、公民館は学習活動支援だけでなく、人づくり（人材育成）を視点として地域づくり（地域の活性化）に向けた地域諸団体との連携に取り組むなど地域における社会教育施設として重要な役割を担っている。

この地域づくりの取組のなかで、若者の地域参加支援の役割を大いに期待するものである。

(2) 大学生の公民館利用の状況と望まれる施設

① 大学生の公民館利用状況

今回実施した大学生への意識調査によれば、「高崎市に公民館があることを知っているか」の問いに対し、「知らない」と答えた人数が、「知っている」と答えた人数を上回った（知らない50%、知っている45%、無回答5%）【グラフ14】。また、「高校生までに公民館を利用したことがあるか」の問いに対しても、「ない」と答えた人数が、「ある」と答えた人数を上回った（ない58%、ある37%、無回答5%）【グラフ15】。これら2つの調査結果には相関性があり、小委員会では、「子どもの頃に公民館の利用があれば、大学生になってからも存在を把握しており、逆に子どもの頃から公民館を利用せず育った大学生は、その後も存在自体を知らない」という因果関係があると考えた。公民館利用者層の高齢化が進めば、子ども達の利用も減少が予想され、この場合、若者の公民館認知度が、今後、より一層、低下する可能性が高い。

続いて、主な利用状況についての調査結果だが、大学進学以後の公民館利用は非常に少なく、かつ、利用内容も図書室利用が過半数を占め、活動の拠点としての姿はほとんど見られなかった【グラフ16・17】。

② 大学生が望む公民館施設・設備

公民館にあったらよいと思うものについては、「Wi-Fi」「シアター」「音楽スタジオ」「サロン・談話スペース」が上位となった【グラフ6】。「Wi-Fi

i」については、公民館を問わず、大学生世代においては、あらゆる施設で利用可能となってほしい設備であると考え。「シアター」や「音楽スタジオ」は、地域活動の面がないとは言い切れないが、大学生にとって「公民館＝活動の拠点」ではなく、「公民館＝貸館施設」という印象がある。

③ 公民館に望む取組

よって、大学生は現在、地域活動の拠点として公民館を利用していない、かつ、公民館に望むものも地域活動の拠点としての機能ではないと考えられる。一方で、同じく大学生に実施した地域参加に関する意識調査では、地域活動に参加していない理由について、「興味がない（20%）」という意見に対し、「時間が合わない」「一緒に参加する人がいない」「情報が入らない」という意見がそれぞれ上回る結果となった【グラフ 12】。大学生は地域活動に対し、ポジティブな意見が多く、問題となるのは、一緒に参加できる同世代、異世代との交流不足や、地域活動についての情報不足にある。公民館事業で、今後参加したいものについての調査結果でも、多い順に「趣味や教養」「同世代の人との交流」「子ども達との交流」が挙げられ、交流の場としての需要が把握できた【グラフ 18】。

このことから、公民館に望むのは、子ども達及び同世代、並びに地域活動に精通している地域住民との積極的な交流ができる場の提供である。現状のように、施設自体が満員であれば、若者向けの新規事業を開催するといった、無理に抉じ開ける施策ではなく、既存事業への参加を呼びかける（例えば幼児教室等に大学生が参加・交流する）施策も考えられる。上記①で述べた「子どもの頃の公民館利用の有無と大学生の公民館認知度との因果関係」についても、子どもの頃に、大学生や若者と公民館で交流した経験があれば、将来的に若者層の公民館認知度が高まる可能性がある。

また、公民館の主催事業だけでなく、その他に交流ができる情報（他の公民館施設の情報やその他施設の情報）の提供や、大学等と連携し、地域活動へのコーディネート（橋渡し役）ができる施設が望まれる。公民館は、「館」であるが、情報化社会となった今日、「館」という施設利用の是非だけではなく、「地域活動の拠点＝地域活動情報の提供拠点」としても、大学生に認知されるような施設になることを望みたい。

(3) 子育て世代の公民館利用の現状と望まれる施設

① 子育て世代の公民館利用の現状

今回調査対象とした子育て世代における公民館利用の多くは、自らが所属する育成会やPTAの会議や地域行事への参加・準備をする機会が多く、普段、個人として公民館を利用することは少ない【グラフ 19】。

なぜ、子育て世代が遠ざかってしまうのか。その辺りを考えていかないと利用の状況は今後さらに先細りになってしまうのではないだろうか。

子育て世代が公民館の利用から離れてしまう理由の多くが、小学校卒業と同

時に所属団体から離れ、子どもも中学校での活動が中心となり、親が子どもと一緒に参加する機会がなくなることが要因と考えられる。同時に、子どもも地域活動への参加が減少するようになり、公民館の利用も減少すると考えられる【グラフ 5】。

また、各公民館では利用促進に向けて、様々なセミナーや講習会等を開催しているが、高齢者向けの内容の事業が多く、結果的に公民館利用者の多くが高齢者となり、子育て世代との年齢を超えた交流の場になることは少ない【グラフ 20】。

公民館設立当初は、公民館での活動を通して子育て世代も地域の人との交流を行い、地域の様々な活動や伝統行事などを積極的に引き継ぎ活動を継続させてきた。その際、親と共に参加した子どもたちは活動を通して社会への順応性を学ぶ良い機会となり、地域社会のなかでの人間関係を形成していた。それが近年においては、生活意識の変化により楽しみ方が多様化し、公民館利用が子育て世代の楽しみの選択肢に入ることが少なくなったと考えられる【グラフ 13】。

このような課題を解決し、子育て世代が公民館を継続して利用し続けるための仕組みづくりが、大切なのではないだろうか。小学校を卒業して子どもが成長しても地域の人とのつながりを継続できる仕組みが必要であり、そのような環境で育った経験を持つ子どもが成長することはとても大切である。

また、子育て世代も子どもと共に少しでも地域活動とのつながりを継続する仕組みづくりが出来れば、地域の人達との交流と後継者づくりが続くはずである。その活動の中から地域で結束できる絆が生まれ、公民館はその絆を強めたり広めたりする交流の場になると考える。

② 子育て世代に望まれる施設

子育て世代にも様々な意見があり、公民館にあつたらよいと望む機能は時代と共に変化している【グラフ 7】。そのことを考えると、現在の子育て世代は育成会行事の打ち合わせなど会議等の利用が多いが、それ以外にも様々な理由で公民館活用をしていることが伺える。

子育て世代が公民館を利用するにあたり、子どもの年齢も幅があり、望まれる機能として、「シアター」や「キッズコーナー」「ベビーコーナー」を挙げている。この要望は、子育て世代が公民館を子どもと一緒に過ごし、安全に遊ばせられる身近な施設になることを望んでいることが分かる。

また、近年では情報端末（PCやスマートフォン等）が普及し、公民館以外の施設利用状況が分かるシステムやWi-Fiが利用できる機能を望む声も多い。他の公民館や公民館以外の施設情報について、公民館が直接情報提供することにより、子育て世代との交流が図られ、次への取組へと発展させることも可能になると考える。

このような子育て世代の様々な要望に応えるには、現在の施設を改修しなくてはならず課題が多い。しかし時代と共に公民館施設に望む設備が変化してい

く中で、可能な限り利用者の立場にたった施設・設備の改善に努めることを望みたい。

2 若者の地域参加を促すために公民館に期待する取組

(1) 大学生に対する取組への期待

① 大学生が利用している施設と公民館との相違

現在、「賑わいのある街づくり」を目指して、街中のカフェなどを活動の拠点として活動している。今回の調査でも、カフェなどの商業施設を活用しているとの回答が22%と5人に1人の割合であった【グラフ21】。一方で、公民館については、知っていても利用は14%にとどまっている【グラフ16】。その理由を「カフェ等と公民館との違い」で比較すると、下記のようなことが考えられる。

<カフェ等と公民館との違い>

カフェ等の施設	公民館
<ul style="list-style-type: none"> ・生活スタイルに合わせて利用できる ・利用目的は自由である ・飲食ができる ・開放的な雰囲気である ・近くに商業施設もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の予約が必要である ・明確な利用目的が必要である ・飲食は持ち込みのみになっている ・学習施設の雰囲気が強い ・商業施設と離れた場所が多い

この比較からも、学生にとって現在の公民館は利用する施設としては魅力的ではないとの印象が強いことがわかる。「知らない」から利用が少ないだけでなく、「知り得た」としても公民館施設の利用は少ないと考えられる。今後、学生への対応だけでなく、誰もが利用したいと思う施設として、自由に使えるスペースの確保や希望として多いWi-Fiの設置などを検討する必要がある。

② 大学生を対象とする公民館の取組の現状

高崎市の公民館で実施されている事業で、学生を参加対象として明記している事業は見られない。しかし、子ども対象の事業に主催者側の一員として学生が参加している事例は報告されている。東公民館、北部公民館や南八幡公民館を含むブロックの公民館主事の研修企画事業では、地域にある大学との連携・協力関係のもとで多くの学生が補助指導者（協力者）として参加している。

これらの事例は、公民館の認知度が低く、公民館事業や地域行事への参加も少ないのが実態であるが、取組の方法次第で学生の参加を促すことの可能性を示している。

特に、学生以外の若者である子育て世代が、居住地内での公民館を参加の条件に挙げているのに対して、学生は居住地外であっても参加を希望するなど、活動参加のエリアが広いことは地域内に大学がなくても協働できる可能性も

示している。

③ 公民館に期待する取組

学生は気軽な居場所として、身近な人とのつながりに適している施設(場所)を利用していることがわかる【グラフ 21】。一方で、学生以外の人との交流も 67%と多い【グラフ 22】。地域行事への参加も割合は 30%と多いとはいえないが、それでも 3 人に 1 人は参加に積極的な学生がいることが今回の調査で明らかになった【グラフ 8】。

このような学生の状況を踏まえて、公民館に新たな取り組みを期待したいが、現状をみると、公民館の目的である「社会の要請」に応えた学びの機会の提供を主催事業として実施し、同時に「個人の要望」に応え自主グループ活動の場を提供している。加えて、地域づくりの重要な施設としての役割を果たしている。今後、学生を対象とした新たな事業展開を求めることは、課題によっては必要であるが、それ以上に、学生の特性や要望を活かした事業への取組を通して社会教育施設としての目的を果たされることを期待したい。

ア、子ども対象事業の企画・運営に学生の参加を呼びかける取組

現在、ほとんどの公民館において、幼児や小学生を対象とした事業が行われている。その事業の実施においては、どの公民館も一人一人の子どもに配慮した手立てをしている。講師一人で進めるのではなく、参加人数に合わせて補助者を協力者として依頼するなどである。補助者に学生が加わることは、子ども達にとっても比較的年齢が近い学生と心を通わせて取り組むことが期待できる。このような取組は事業そのものを充実させるだけでなく、学生という若者に公民館への関心と理解を深める意味でも重要なことと考える。

公民館事業に学生参加を進めるには、第 1 章の 4 で述べたように教育委員会と公民館の社会教育行政と大学との緊密な連携が体系的に整備されることが重要である。

イ、学生と子育て世代や地域の諸団体をつなぐ取組

一つには、子育て世代と交流できる機会の提供である。子育て世代は子ども対象の事業と一緒に参加して公民館を利用することが多い。その親子参加の事業を実施するに当たって、主催者を助ける補助者(ボランティア)として学生に参加を呼びかけ、その事業のなかで子育て世代との交流機会を意図的に設定するなど、学生と子育て世代をコーディネートする取組を期待したい。また、調査対象の子育て世代(小学校高学年の親)は、子どもが低学年の時と比べ、事業への参加は減少するが、逆に利用については増加している。この「大学生の地域行事への参加を期待している」82%の子育て世代の親【グラフ 23】と、同じ若者世代の学生との交流機会を設定することは重要であり、かつ、有意義なことと考える。

二つには、地域諸団体とのコーディネートである。学生が地域行事で参加希

望が多いのは、祭りや地域おこしイベントへの参加である。公民館は直接地域行事に関わることは少ないが、地域の様々な情報は把握している。地域の要望でもある情報を、連携している大学の地域参加を希望している学生に伝え、両者の協働をコーディネートする役割を期待したい。

(2) 子育て世代に対する取組への期待

① 公民館における子育て世代を対象とした事業と自主的活用の状況

中央公民館発行の事業報告書（平成27年度）によれば、中央公民館と43地区公民館における若者対象の事業は、具体的な年齢別統計がないため明確な実態把握はできないが、家庭教育支援として子育て世代を対象とした事業が全ての公民館において数多く実施されている。また、利用者団体の状況でみると、乳幼児（児童を含む）を持つ親世代のサークル37団体が中央公民館を含む26公民館で活動している。母親が中心と思われるが、子育て世代の多くが公民館を利用していることになる。今回の調査では同様の結果が見られないが、調査対象が地域とのつながりが強い、子ども会育成会役員として活動している高学年の親としたためと思われる。公民館の親子対象事業への参加も見られるが（20%）、利用としては自主的活動である会議や打合せの利用が多い（52%）結果が示されている【グラフ19】。

② 人材育成と交流活動支援への期待

調査対象の子育て世代の公民館利用は、所属する団体（育成会等）の会議や打合せが多いが【グラフ19】、その内容は団体独自の行事に関するものとともに、主催団体の一つとして参加している地域行事に関するものも多いと考えられる。このことから、公民館は子育て世代が地域行事の一役を担う役割や地域の諸団体との連携を図るうえで重要な場所になっていることがわかる。参加の理由を「興味・関心があったから」と回答し、子どもの卒業後も継続参加を希望する親がいる一方で、「役員だから」「子どもが参加しているから」を参加の理由にあげ、子どもの卒業と同時に「やめる」との回答が34%いるなど、参加の意識には大きな差があることがわかる【グラフ4・5】。

よって、同じ子育て世代への対応ではあるが、この意識の違いを考慮した支援を考える必要がある。

ア、地域活動に積極的な子育て世代への支援

子どもが卒業後も継続して地域の取組に参加したいという子育て世代に対して、地域行事の継続・発展を可能にする意味でも、その意思を尊重する支援が必要である。公民館事業や地域行事への参加で交流を深め、信頼関係ができた人同士が新たな取り組みへも積極的に関わられるよう、「リーダー育成」を目的とした事業を地域の諸団体とも連携して実施することを期待する。

特に、この世代の人口も減少している状況を考えると可能な限り継続して関わられる体制づくりが求められる【グラフ5】。

イ、地域活動に消極的な子育て世代への支援

積極的な親がいる一方で、「引き継ぎをしてやめる」「参加をやめる」など比較的消極的な親も多い。理由として、「時間が取れない」「子どもの成長に対応した新たな用事の増加」が考えられるが、「公民館事業に親子参加した経験がない」「役員であつての参加で、親同士の交流機会が恵まれていなかった」など、地域行事等の意義を理解し、継続参加の意思があつても様々な理由でできない親もいると考えられる。この親達には生活スタイルに配慮した無理のない参加を、積極的な親から呼びかけてもらうなど、親同士の交流が継続できる支援が必要である。

ウ、親の交流につながる子ども対象事業の充実

子育て世代が公民館利用している内容として、会議等の他に親子対象の事業やイベントをあげている【グラフ 19】。親だけの参加は少なくても、子どもが参加または親子一緒に参加には積極的であることがうかがえる。よって、子ども対象の事業を実施するに当たっても、親の参加にも配慮した取組が望まれる。さらに、親にも運営に積極的に関わられる工夫や地域行事を担っている組織や団体と連携し、参加しやすい仕組みづくりを整えることを期待する。

このことは、直接的には親への働きかけであるが、この時参加した子どもたちが、やがて若者に成長した時に再び公民館や地域の行事に親しみをもって自然に関われるための、未来を見据えた取組として期待するものである。

まとめと提言

高崎市社会教育委員会議では、以下の3点に基づいて、若者の地域参加を促すための施策を実施していくことを提言する。

- (1) 地域づくりを支える組織・団体間の連携体制の整備
- (2) 若者の地域参加を促進するための支援方策
- (3) 時代の変化や若者のニーズに対応した社会教育施設（公民館）の整備・充実

(1) 地域づくりを支える組織・団体間の連携体制の整備

①若者の地域参加を後押しする仕組みづくり

教育委員会が公民館・大学・地域諸団体に働きかけ、4者が若者の地域参加支援について協議する場を設ける等、若者の地域参加が継続して可能となる仕組みづくりを整備する。

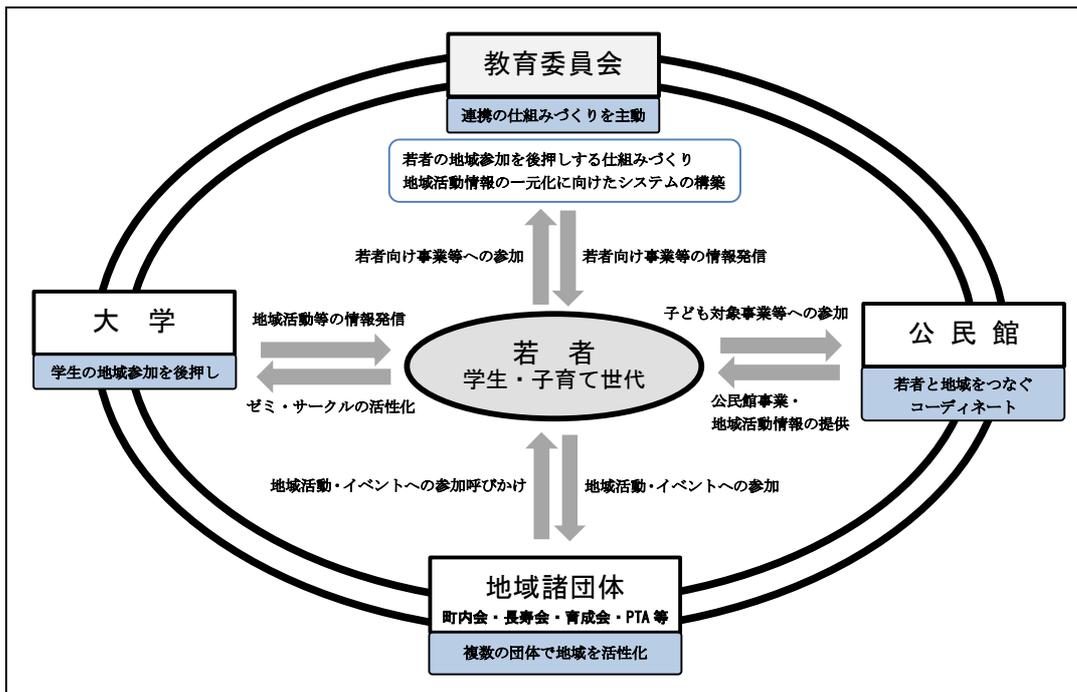
②地域活動情報の一元化に向けたシステムの構築

教育委員会が地域行事や公民館事業等、地域活動に関する情報を集約し、4者間の情報交流や若者への情報発信が可能な情報管理システムを構築し、情報の共有化・一元化を目指す。

③若者と地域をつなぐコーディネーター機能の強化

公民館が若者と地域をつなぐコーディネーターの役割を果たすため、公民館の機能の充実とともに、地域課題を的確に把握し、若者や地域の要望を実現する事業を企画・運営することのできる社会教育主事の養成と配置を進める。

若者の地域参加を支援する連携体制図



(2) 若者の地域参加を促進するための支援方策

①若者を対象とした公民館事業の実施

若者の地域参加を支援するため、公民館が中心となり大学や地域諸団体と連携した次のような事業の実施を期待する。

- 既存事業の改善
 - ・企画・運営に大学生が参加する子ども対象事業の実施
 - ・親同士の交流につながる子ども対象事業の充実
 - ・子育て世代を対象とした地域リーダー育成事業の実施
- 新規事業の実施
 - ・学生と子育て世代が交流できる機会の提供
 - ・若者を対象とした地域デビュー事業の実施

②若者向け情報発信の充実

若者の地域参加を促すために、広報誌やホームページによる情報提供に加え、情報配信サービスや SNS を介した若者からの参加呼びかけ等による情報発信の有効活用を検討する。

(3) 時代の変化や若者のニーズに対応した社会教育施設（公民館）の整備・充実

①公民館の周知・利用促進

市外出身者が多い大学生に対して、公民館情報や利用方法を周知するとともに、公民館事業への参加が小学生で終わることなく、中高生でも継続して公民館と関わられるよう改善を図る。

②公民館の情報提供機能の強化

公民館は地域活動情報の提供拠点として、広域的なネットワークを築き、他の公共施設や民間施設を含む近隣施設の利用状況照会、他地域施設との交流促進を更に進める。

③若者が参加・利用しやすい環境づくり

自由に使える活動・学習スペースの提供や公衆無線 LAN (Wi-Fi) の設置等、既存設備の有効活用や整備拡充を進めるとともに、公民館主事がつなぎ役となり、高齢者だけでなく若者も参加・利用しやすい環境づくりに努める。

また、今回の答申では、地域の活性化の力となる若者として、大学生と子育て世代を対象を絞って審議を進めてきたが、今後は高校生や留学生も含めた若者支援のあり方や地域活性化の方法を地域に合わせて検討する必要がある。

- <参考資料>
- 平成 23・24 年度高崎市社会教育委員会議提言
「孤立しがちな子育て中の親への支援」
 - 平成 25・26 年度高崎市社会教育委員会議提言
「世代を超えて地域づくりに参画する人づくり支援」
 - 高崎市の公民館 平成 27 (2015) 年度事業報告



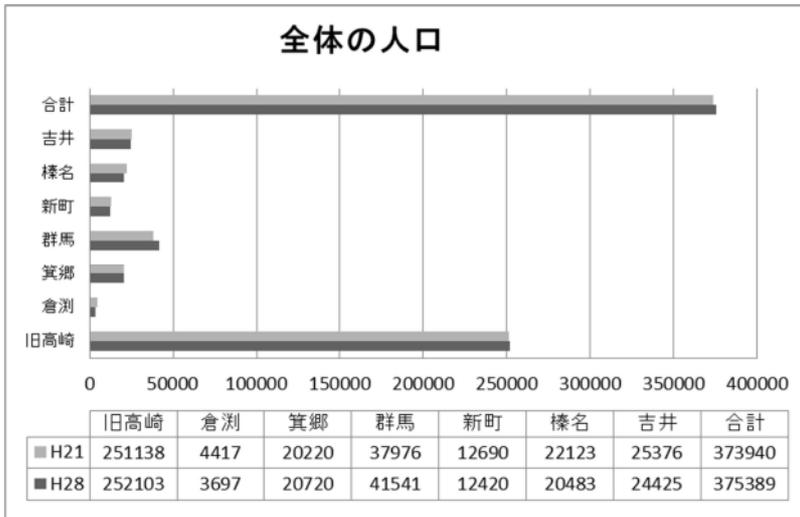
添付資料

- ・地域参加に関する意識調査 調査結果（抜粋）
- ・地域参加に関する大学生の意識調査 調査票
- ・地域参加に関する子育て世代の意識調査 調査票
- ・平成 27・28 年度高崎市社会教育委員会議開催経過
- ・平成 27 年度高崎市社会教育委員名簿
- ・平成 28 年度高崎市社会教育委員名簿

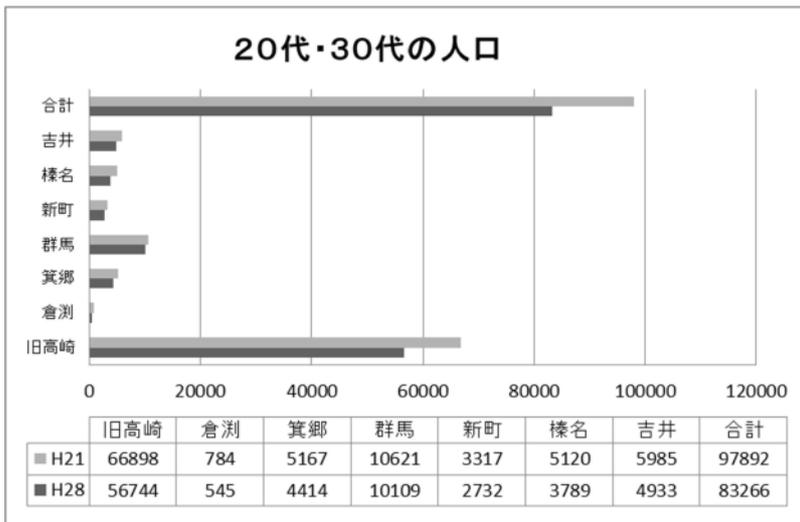
地域参加に関する意識調査 調査結果（抜粋）

No.	タイトル
1	高崎市の人口比較
2	20代・30代の人口比較
3	子育て世代の地域活動への参加
4	子育て世代が地域活動に参加した理由
5	子どもの小学校卒業後の活動
6	大学生が公民館にあったらよいと思う機能
7	子育て世代が公民館にあったらよいと思う機能
8	大学生の地域活動への参加
9	大学生が地域活動に参加してよかったこと
10	大学生が地域活動に参加した理由
11	大学卒業後の活動
12	大学生が地域活動に参加しない理由
13	子育て世代が地域活動に参加しない理由
14	大学生の公民館の認知度
15	大学生の公民館利用の有無（高校生まで）
16	大学生の公民館利用の有無（大学入学以降）
17	大学生の公民館の主な利用内容
18	大学生が参加したいもの
19	子育て世代の公民館の主な利用内容
20	子育て世代が参加したいもの
21	大学生が調べ物などで利用する場所
22	大学生の学生以外との関わり
23	子育て世代から見た大学生の地域参加

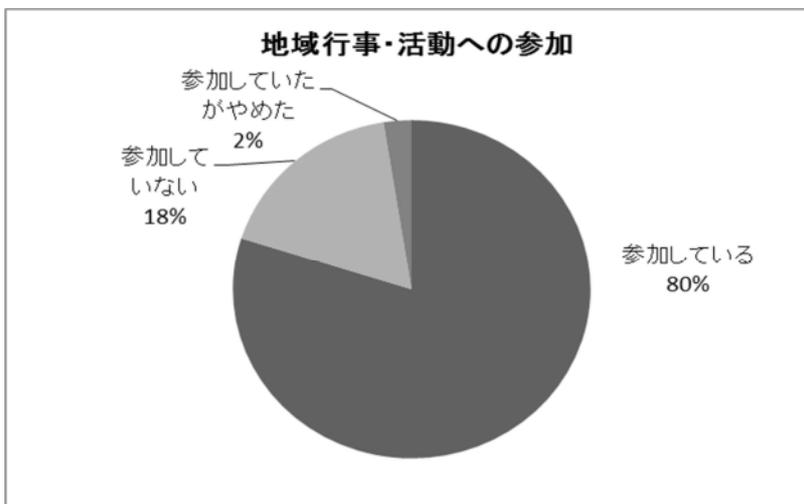
グラフ1 高崎市の人口比較



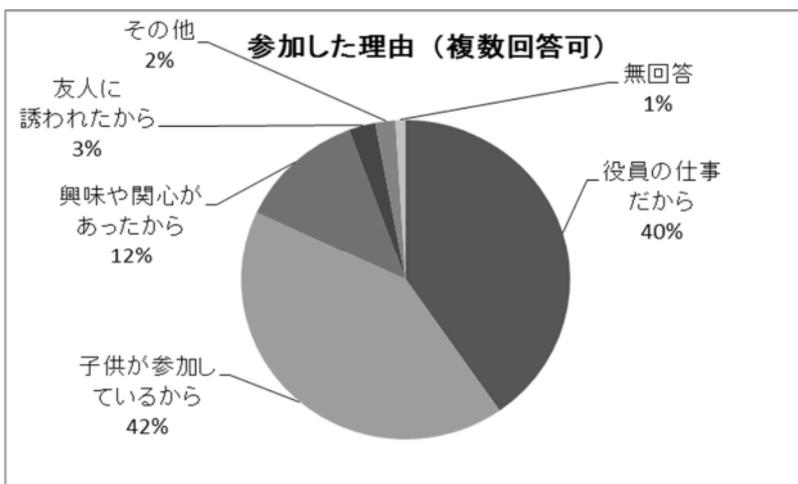
グラフ2 20代・30代の人口比較



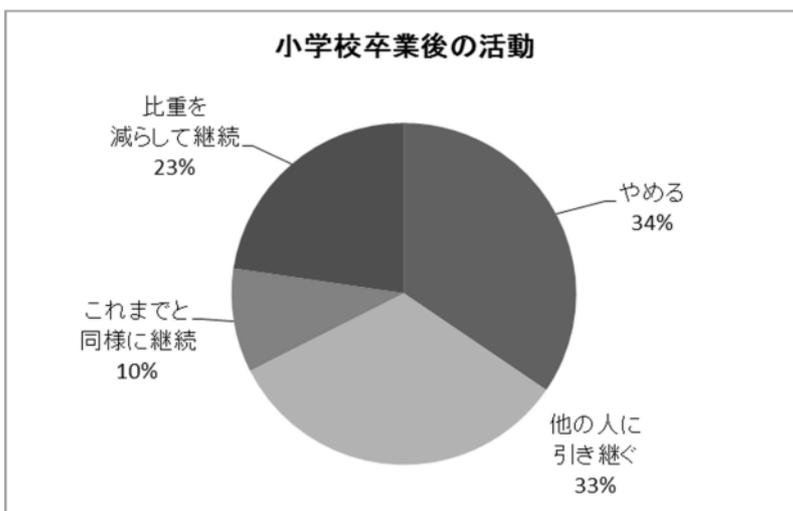
グラフ3 子育て世代の地域活動への参加



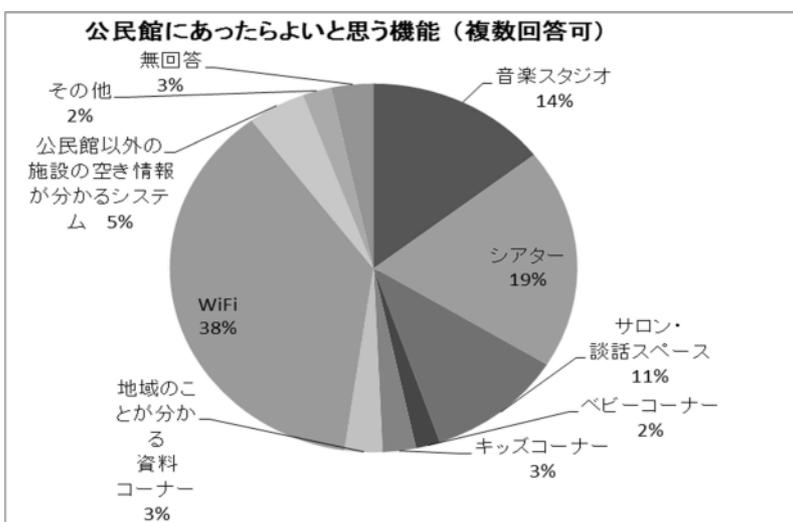
グラフ 4 子育て世代が地域活動に参加した理由



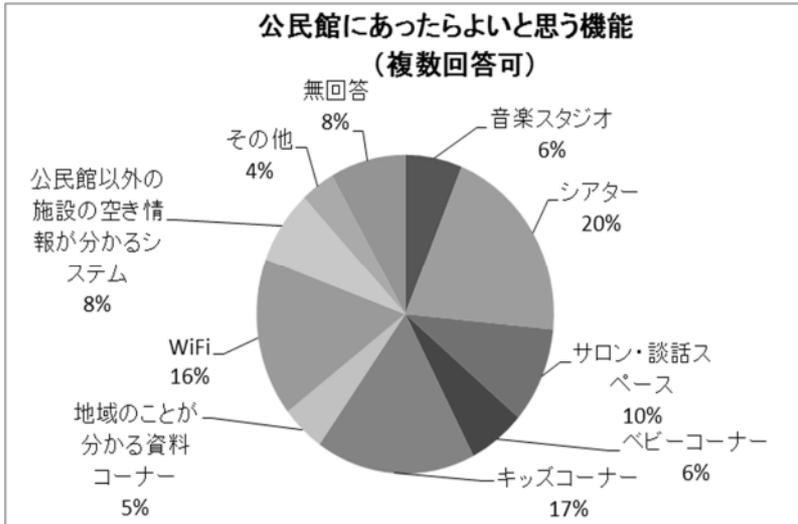
グラフ 5 子どもの小学校卒業後の活動



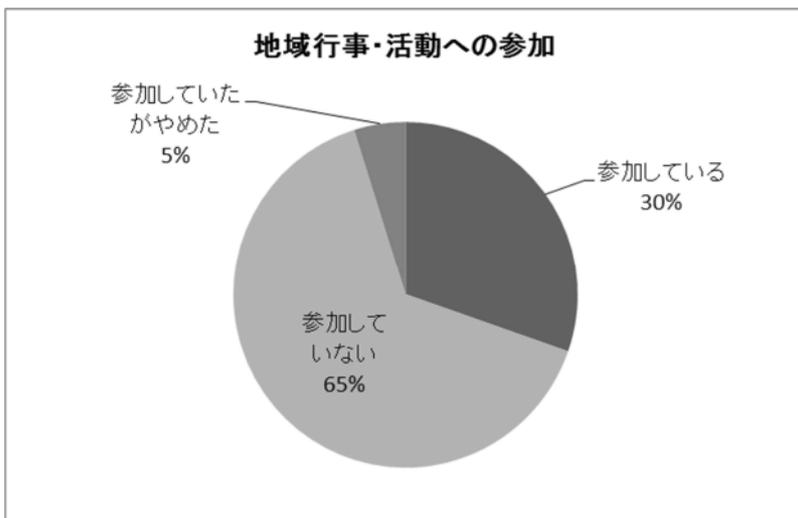
グラフ 6 大学生が公民館にあったらよいと思う機能



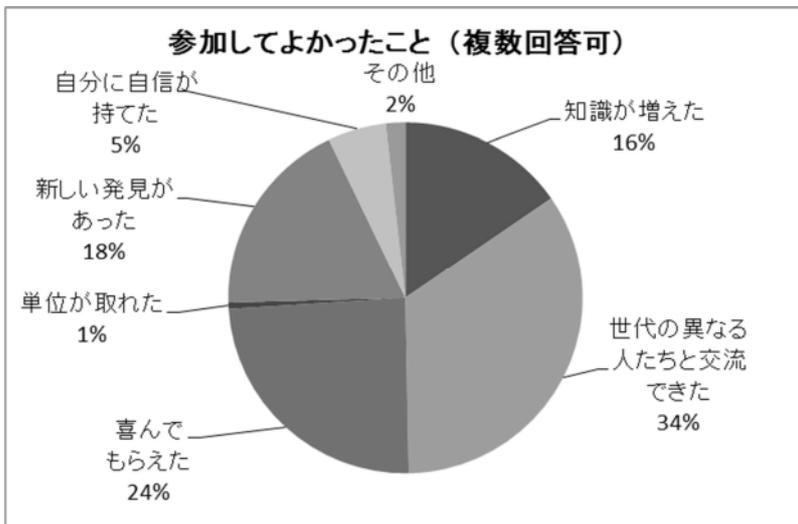
グラフ7 子育て世代が公民館にあったらよいと思う機能



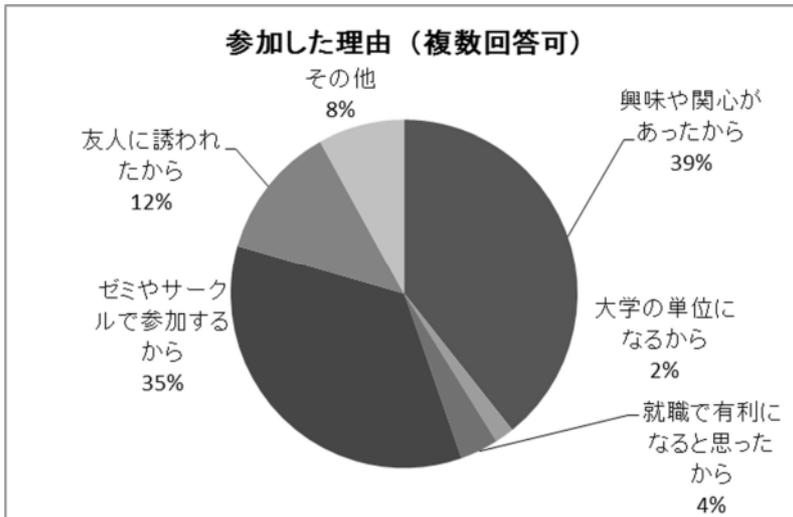
グラフ8 大学生の地域活動への参加



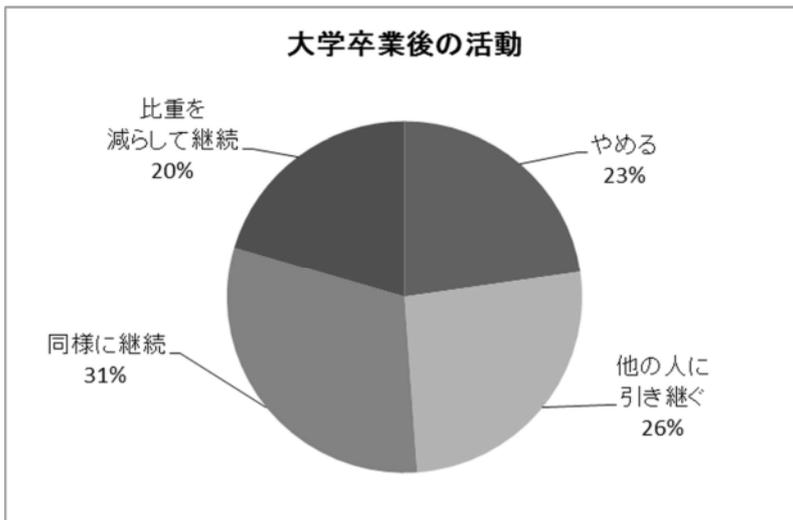
グラフ9 大学生が地域活動に参加してよかったこと



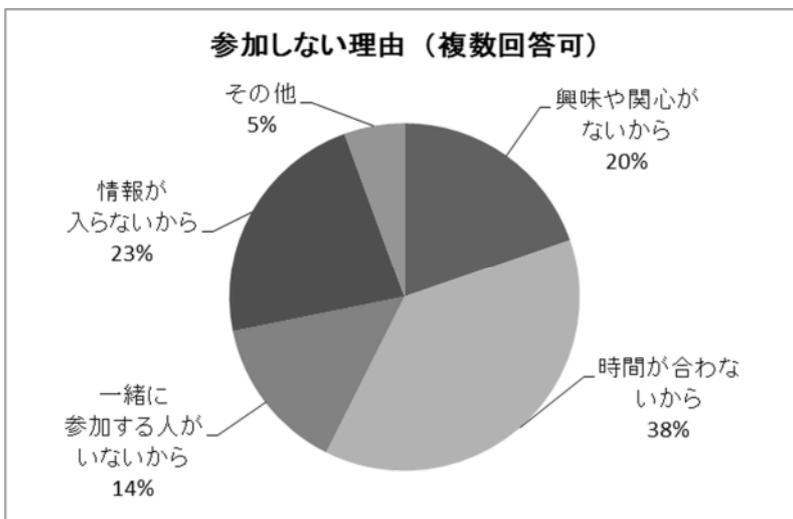
グラフ 10 大学生が地域活動に参加した理由



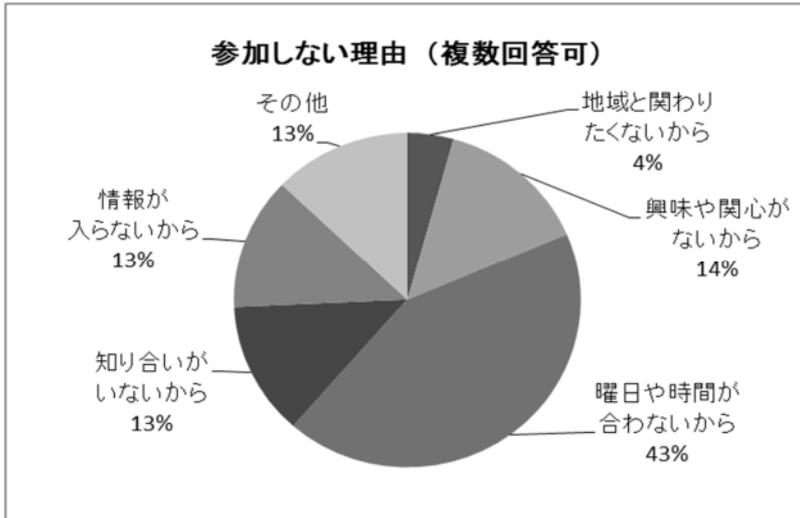
グラフ 11 大学卒業後の活動



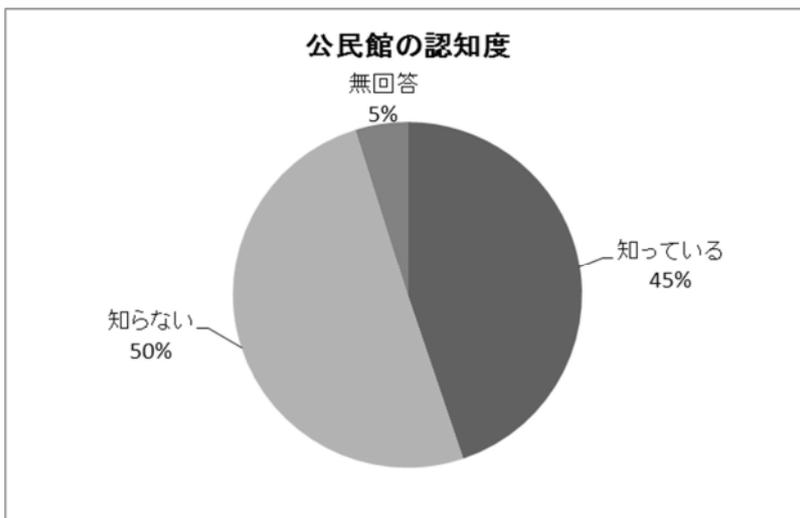
グラフ 12 大学生が地域活動に参加しない理由



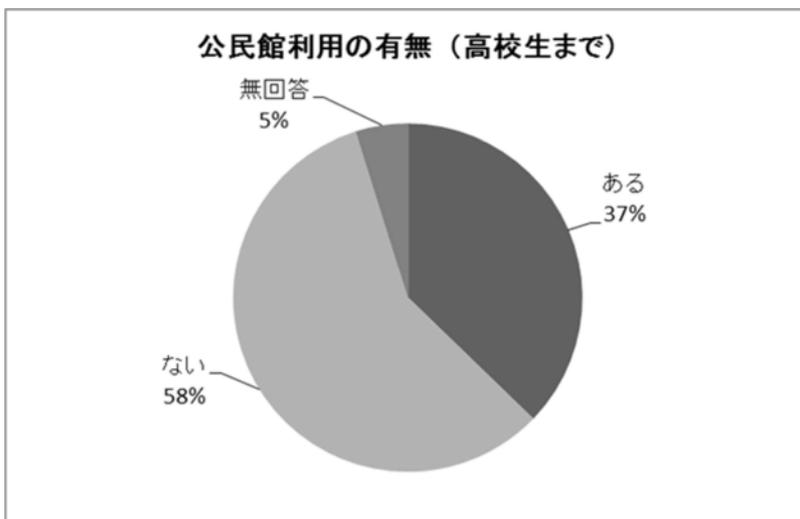
グラフ 13 子育て世代が地域活動に参加しない理由



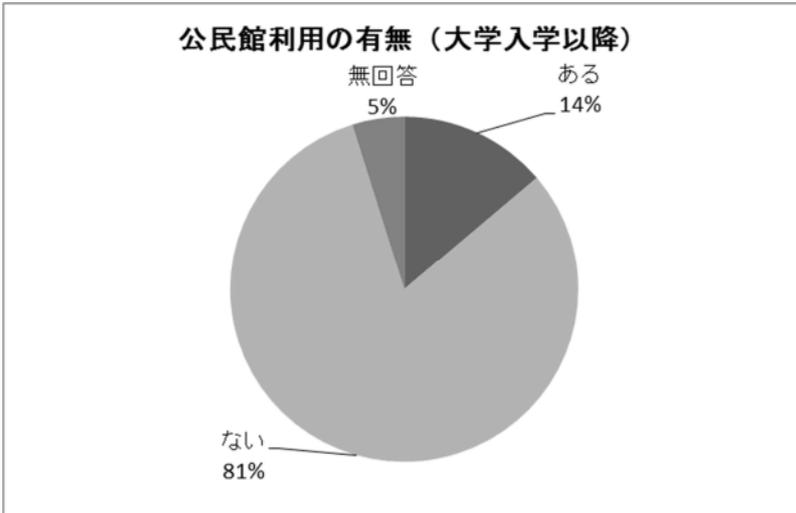
グラフ 14 大学生の公民館の認知度



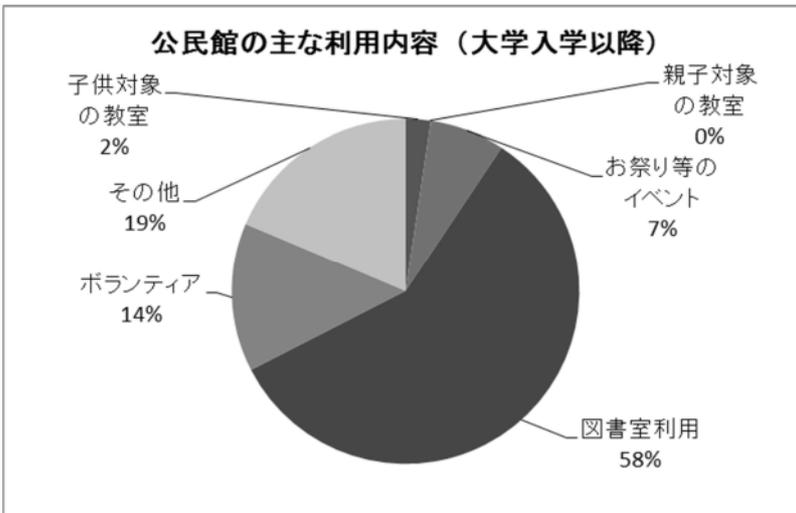
グラフ 15 大学生の公民館利用の有無（高校生まで）



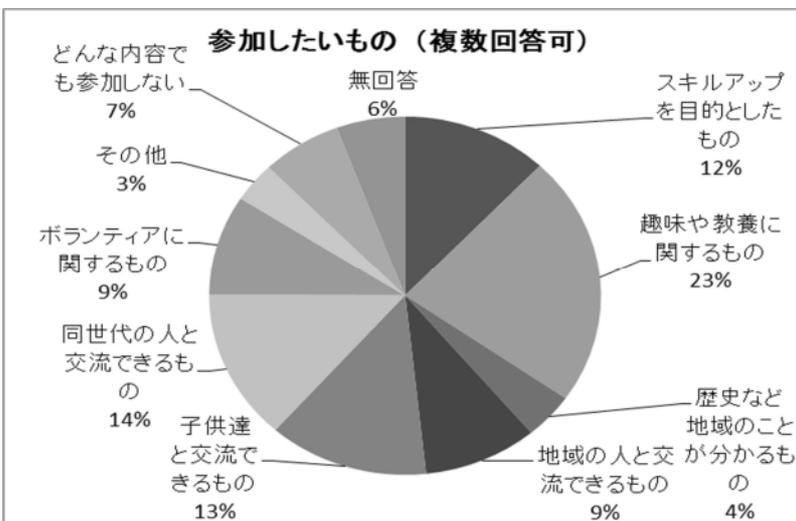
グラフ 16 大学生の公民館利用の有無（大学入学以降）



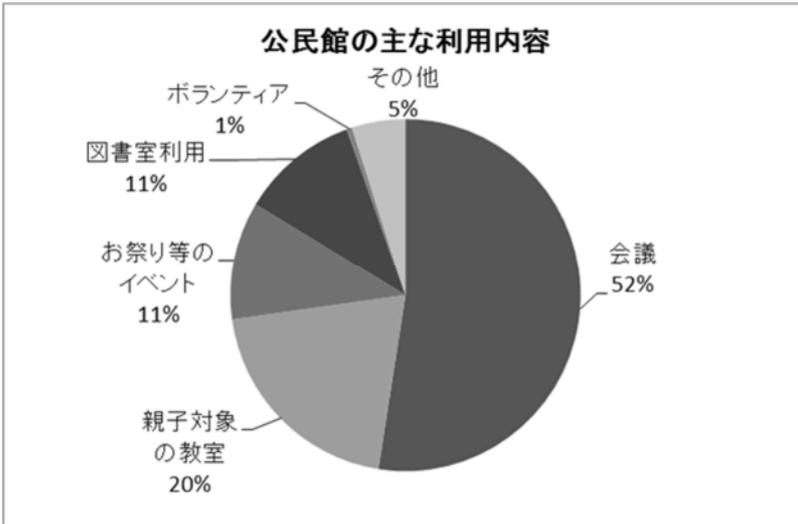
グラフ 17 大学生の主な公民館の利用内容



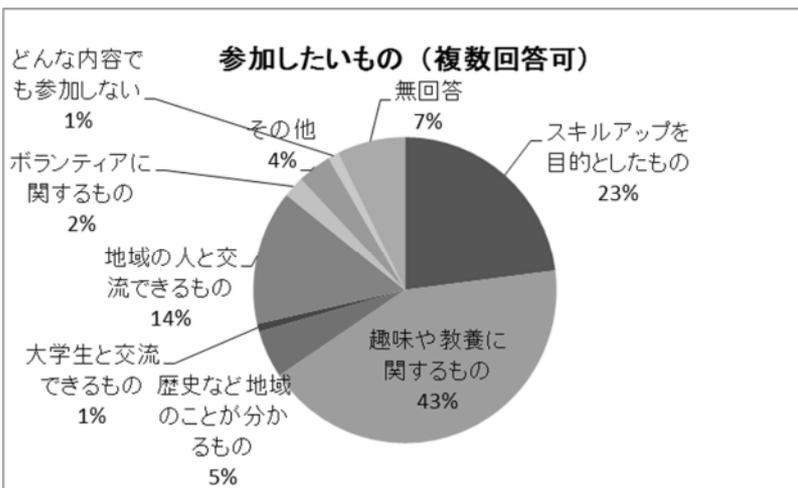
グラフ 18 大学生が参加したいもの



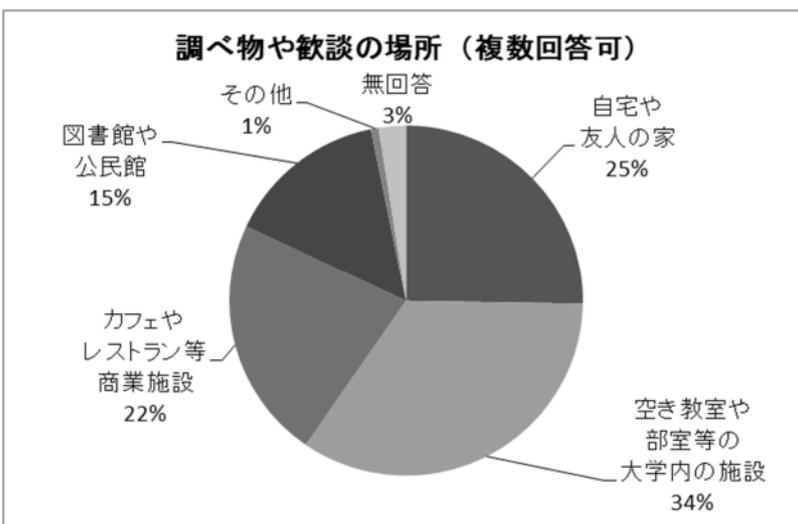
グラフ 19 子育て世代の公民館の主な利用内容



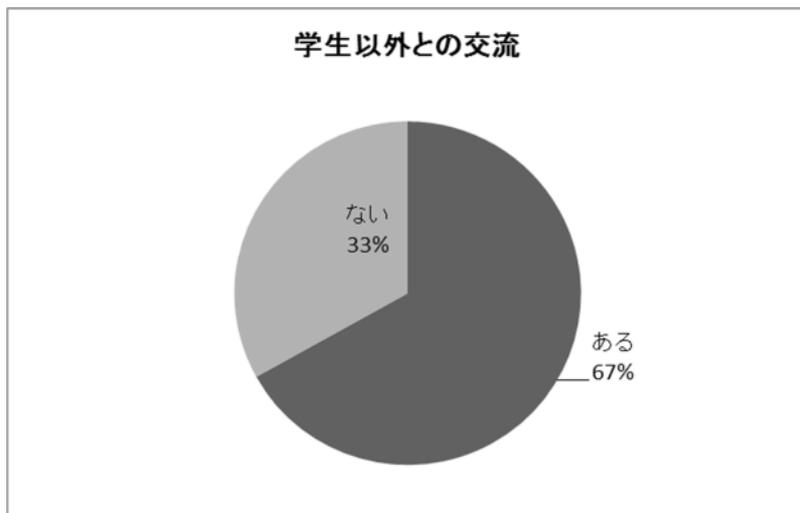
グラフ 20 子育て世代が参加したいもの



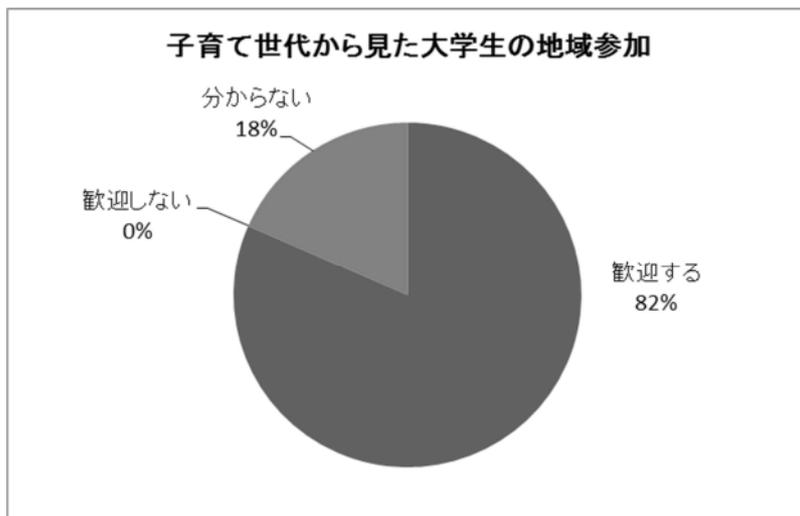
グラフ 21 大学生が調べ物などで利用する場所



グラフ 22 大学生の学生以外との関わり



グラフ 23 子育て世代から見た大学生の地域参加





地域参加に関する大学生の意識調査

私たち高崎市社会教育委員会では、教育委員会からの諮問「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」を受け、平成27・28年度の2年間にわたり、若者の地域参加について調査・研究をすすめています。

このアンケートは、地域でも活躍を期待されている大学生の皆さんに、地域との関わりや地域でやってみたい活動・公民館の活用実態等を教えていただくものです。

回答は本市の地域と若者を考える資料にのみ活用させていただき、個人情報等の取り扱いは細心の注意を払いますので、ご協力よろしくをお願いいたします。

問い合わせ先：高崎市教育委員会事務局 社会教育課 磯貝・八木（電話027-321-1295）

選択式の回答は、該当箇所のマークを黒のボールペンで塗りつぶしてご回答ください。
間違えた場合は、修正テープで消すか、間違えたマークに大きく×を書いてください。
「その他」を選択した場合は、具体的に（ ）に記入してください。（ ）に書ききれない場合は、はみだしても大丈夫です。

I 地域との関わりについて

(1) 日頃、学生以外の人と交流（挨拶を交わすなど）がありますか。

ある ない

(2) 大学生になってから、地域の行事や活動に参加していますか。

参加している→(3)へ 参加していない→(7)へ 参加していたがやめた→(7)へ

(3) 参加している行事や活動について伺います。(A)参加の形態はどれですか。(B)活動場所はどちらですか。

((A)と(B)の両方の該当する箇所(各項目1カ所ずつ)を塗りつぶしてください)

		(A) 参加の形態					(B) 活動場所			
		参加していない	企画段階から参加	当日のみスタッフとして参加	当日のみお客として参加	当日と反省会に参加	参加していない	居住地	居住地以外	居住地とそれ以外両方
1	スポーツ行事	<input type="radio"/>								
2	伝統行事（祭り等）	<input type="radio"/>								
3	伝統芸能（獅子舞等）	<input type="radio"/>								
4	地域防災活動（避難訓練等）	<input type="radio"/>								
5	環境美化活動	<input type="radio"/>								
6	地域安全・防犯	<input type="radio"/>								
7	地域おこし等イベント行事	<input type="radio"/>								
8	その他（ ）	<input type="radio"/>								

(4) 参加した理由は何ですか。（複数回答可）

興味や関心があったから 大学の単位になるから 就職で有利になると思ったから
 ゼミやサークルで参加するから 友人に誘われたから その他（ ）

★マークのしかた



(5) 参加してよかったことは何ですか。(複数回答可)

- 知識が増えた 世代の異なる人たちと交流 喜んでもらえた 単位が取れた
 新しい発見があった 自分に自信が持てた その他 ()

(6) 卒業後はどうしたいですか。

- やめる 別の人に引き継ぐ これまでと同様に続ける 比重を減らして続ける

→次頁(9)へ

(7) 地域の行事や活動に参加していない人に伺います。参加しない理由は何ですか。(複数回答可)

- 興味や関心がないから 時間が合わないから 一緒に参加する人がいないから
 情報が入らないから その他 ()

(8) 地域の行事や活動に参加していない人に伺います。参加してみたい行事や活動について、(A)参加の形態はどれがよいですか。(B)活動場所はどちらがよいですか。

((A)と(B)の両方の該当する箇所(各項目1カ所ずつ)を塗りつぶしてください)

		(A) 参加の形態					(B) 活動場所		
		参加したくない	企画段階から参加	当日のみスタッフとして参加	当日のみお客として参加	当日と反省会に参加	参加したくない	居住地	居住地以外
1	スポーツ行事	<input type="checkbox"/>							
2	伝統行事(祭り等)	<input type="checkbox"/>							
3	伝統芸能(獅子舞等)	<input type="checkbox"/>							
4	地域防災活動(避難訓練等)	<input type="checkbox"/>							
5	環境美化活動	<input type="checkbox"/>							
6	地域安全・防犯	<input type="checkbox"/>							
7	地域おこし等イベント行事	<input type="checkbox"/>							
8	その他 ()	<input type="checkbox"/>							



地域参加に関する子育て世代の意識調査

私たち高崎市社会教育委員会では、教育委員会からの諮問「若者の地域参加を促す社会教育の役割と支援」を受け、平成27・28年度の2年間にわたり、若者の地域参加について調査・研究をすすめています。

このアンケートは、地域でも活躍を期待されている子育て世代の皆さんに、地域との関わりや地域でやってみたい活動・公民館の活用実態等を教えていただくものです。

回答は本市の地域と若者を考える資料にのみ活用させていただき、個人情報等の取り扱いは細心の注意を払いますので、ご協力よろしくをお願いいたします。

問い合わせ先：高崎市教育委員会事務局 社会教育課 磯貝・八木 （電話027-321-1295）

選択式の回答は、該当箇所のマークを黒のボールペンで塗りつぶしてご回答ください。
 間違えた場合は、修正テープで消すか、間違えたマークに大きく×を書いてください。
 「その他」を選択した場合は、具体的に（ ）に記入してください。（ ）に書ききれない場合は、はみだしても大丈夫です。

I 地域との関わりについて

(1) 現在、地域の行事や活動に参加していますか。

参加している→(2)へ

参加していない→(6)へ

参加していたがやめた→(6)へ

(2) 参加している行事や活動について伺います。(A)参加の形態はどれですか。(B)活動場所はどちらですか。
 ((A)と(B)の両方の該当する箇所(各項目1カ所ずつ)を塗りつぶしてください)

		(A) 参加の形態					(B) 活動場所			
		参加していない	企画段階から参加	当日のみスタッフとして参加	当日のみお客として参加	当日と反省会に参加	参加していない	居住地	居住地以外	居住地とそれ以外両方
1	スポーツ行事	<input type="radio"/>								
2	伝統行事(祭り等)	<input type="radio"/>								
3	伝統芸能(獅子舞等)	<input type="radio"/>								
4	地域防災活動(避難訓練等)	<input type="radio"/>								
5	環境美化活動	<input type="radio"/>								
6	地域安全・防犯	<input type="radio"/>								
7	子供対象	<input type="radio"/>								
8	地域おこし等イベント行事	<input type="radio"/>								
9	その他()	<input type="radio"/>								

(3) 参加した理由は何ですか。(複数回答可)

役員の仕事だから

子供が参加しているから

興味や関心があったから

友人に誘われたから

その他()

★マークのしかた



(4) 参加してよかったことは何ですか。(複数回答可)

- 役員の役目が果たせた
 知り合いが増えた
 喜んでもらえた
 新しい発見があった
 その他 ()

(5) お子さんの小学校卒業後はどうしたいですか。

- やめる
 別の人に引き継ぐ
 これまでと同様に続ける
 比重を減らして続ける

→(8)へ

(6) 地域の行事や活動に参加していない人に伺います。参加しない理由は何ですか。(複数回答可)

- 地域と関わりたくないから
 興味や関心がないから
 曜日や時間が合わないから
 知り合いがないから
 情報が入らないから
 その他 ()

(7) 地域の行事や活動に参加していない人に伺います。参加してみたい行事や活動について、(A)参加の形態はどれがよいですか。(B)活動場所はどちらがよいですか。

(A)と(B)の両方の該当する箇所(各項目1カ所ずつ)を塗りつぶしてください

		(A) 参加の形態					(B) 活動場所		
		参加したくない	企画段階から参加	当日のみスタッフとして参加	当日のみお客として参加	当日と反省会に参加	参加したくない	居住地	居住地以外
1	スポーツ行事	<input type="checkbox"/>							
2	伝統行事(祭り等)	<input type="checkbox"/>							
3	伝統芸能(獅子舞等)	<input type="checkbox"/>							
4	地域防災活動(避難訓練等)	<input type="checkbox"/>							
5	環境美化活動	<input type="checkbox"/>							
6	地域安全・防犯	<input type="checkbox"/>							
7	子供対象	<input type="checkbox"/>							
8	地域おこし等イベント行事	<input type="checkbox"/>							
9	その他 ()	<input type="checkbox"/>							

(8) 大学生が地域の行事や活動に参加することをどう思いますか。

- 歓迎する
 歓迎しない
 分からない

★マークのしかた



II 公民館の利用について

(9) 高崎市に公民館があることを知っていますか。

- 知っている 知らない

(10) 公民館を利用したことがありますか。ある場合、主な利用内容は何ですか。

((A)と(B)の両方の該当する箇所(各項目1カ所ずつ)を塗りつぶしてください)

	(A) 公民館の利用		(B) ある場合の主な活動内容					その他
	ある	ない	会議	親子対象の教室	お祭り等のイベント	図書室利用	ボランティア	
1 公民館を利用したことが	<input type="radio"/>							

その他記入欄 ()

(11) 公民館や他の施設で開催されるもので参加したいものはどれですか。(複数回答可)

- スキルアップを目的としたもの 趣味や教養に関するもの 歴史など地域のことが分かるもの
 大学生と交流できるもの 地域の人と交流できるもの ボランティアに関するもの
 その他 () どんな内容でも参加しない

(12) 公民館にあったらよいと思う機能はどれですか。(複数回答可)

現在の一般的な公民館…学習室・図書室・調理実習室・大会議室・和室・事務室(公民館主事が常駐)

- 音楽スタジオ シアター サロン(談話スペース) ベビーコーナー
 キッズコーナー 地域のことが分かる資料コーナー WiFi 公民館以外の施設の空き情報が分かるシステム
 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

平成 27・28 年度社会教育委員会議開催経過

月日	会議名	内容
平成 27 年 7 月 7 日	第 1 回全体会	① 委嘱状交付 ② 議長・副議長の選出 ③ 社会教育委員についての説明 ④ 任期中の活動について話し合い
9 月 14 日	第 2 回全体会	① 教育委員会より諮問 ② 意見交換
11 月 16 日	第 3 回全体会	① 小委員会の設置について ② 諮問検討
平成 28 年 1 月 19 日	第 1 回小委員会	① 答申作成のスケジュールについて ② 諮問検討
3 月 16 日	第 4 回全体会	② 第 1 回小委員会の報告について ② 意見交換
5 月 23 日	第 2 回小委員会	① 調査票の質問事項について ② 答申書の書式について ③ 答申書の構成について
7 月 7 日	第 5 回全体会	① 委嘱状交付 ② 副議長及び小委員の確認 ③ 小委員会報告及び今後の予定について ④ 諮問検討
9 月 12 日	第 3 回小委員会	① 意識調査の結果及び人口について ② 諮問検討
10 月 31 日	第 4 回小委員会	答申書作成に向けて
11 月 28 日	第 6 回全体会	① 答申書「若者の地域参加を促す社会教育の役割 と支援」(案) について ② 諮問検討
平成 29 年 1 月 16 日	第 5 回小委員会	答申書作成に向けて
2 月 13 日	第 6 回小委員会	答申書作成に向けて
3 月 6 日	第 7 回全体会	① 答申書について ② 意見交換

平成 27 年度 高崎市社会教育委員名簿

◎第 1 号委員（学校教育の関係者）

氏 名	推薦団体・職業等
渡邊 幹夫	高崎市中学校長会（高崎市立榛名中学校長）

◎第 2 号委員（社会教育の関係者）

氏 名	推薦団体・職業等
戸塚 信子	高崎地区婦人会連合会会長
相原 誠一	高崎市 P T A 連合会副会長
吉田 久茂	高崎市体育協会副会長
清水 清志	高崎市文化協会

◎第 3 号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

氏 名	推薦団体・職業等
林 いずみ	高崎市家庭教育推進協議会会長

◎第 4 号委員（学識経験のある者）

氏 名	推薦団体・職業等
渡邊 幹治	高崎市議会総務教育常任委員会委員長
田端 穰	高崎市市長会副会長
木暮 律子	公立大学法人高崎経済大学講師
関根 均	前社会教育委員
志村 隆雄	東京福祉大学非常勤講師
長谷川順一	新島学園短期大学非常勤講師
牧野耕一郎	倉渕地区選出委員
井上喜久美	箕郷地区選出委員
藤森 昇	群馬地区選出委員
佐藤眞喜子	新町地区選出委員
大川原政子	榛名地区選出委員
長谷川洋子	吉井地区選出委員

◎第 5 号委員（公募した市民）

氏 名	推薦団体・職業等
岩下 尚義	
二口 昌弘	

平成 28 年度 高崎市社会教育委員名簿

◎第 1 号委員（学校教育の関係者）

氏 名	推薦団体・職業等
渡邊 幹夫	高崎市中学校長会（高崎市立榛名中学校長）

◎第 2 号委員（社会教育の関係者）

氏 名	推薦団体・職業等
戸塚 信子	高崎地区婦人会連合会会長
中澤 敏	高崎市 P T A 連合会副会長
吉田 久茂	高崎市体育協会副会長
清水 清志	高崎市文化協会

◎第 3 号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

氏 名	推薦団体・職業等
林 いずみ	高崎市家庭教育推進協議会会長

◎第 4 号委員（学識経験のある者）

氏 名	推薦団体・職業等
追川 徳信	高崎市議会総務教育常任委員会委員長
田端 穰	高崎市 区長会副会長
木暮 律子	公立大学法人高崎経済大学講師
関根 均	前社会教育委員
志村 隆雄	東京福祉大学非常勤講師
長谷川順一	新島学園短期大学非常勤講師
牧野耕一郎	倉渕地区選出委員
井上喜久美	箕郷地区選出委員
藤森 昇	群馬地区選出委員
佐藤眞喜子	新町地区選出委員
大川原政子	榛名地区選出委員
長谷川洋子	吉井地区選出委員

◎第 5 号委員（公募した市民）

氏 名	推薦団体・職業等
岩下 尚義	
二口 昌弘	

